

インジェ大学での1週間で経験したこと・感じたこと

医学部医学科3年 岡 毅寛

インジェ大学で行った学習はNephrology PBLです。このNephrology PBLと、インジェ大学の学生との交流の2点について、経験したこと・感じたことを書きたいと思います。

Nephrology PBL

韓国プサンでの1週間の滞在の内、月火水金曜日の4日間においてPBLが行われました。模擬患者さんの訴え、検査などから、どのような原因が考えられるかを7人程度のグループで話し合い、思考マップをつくっていくというものでした。今回の場合は、浮腫を訴える場合にはどのような原因が考えられるかを話し合いました。

議論をする上での前提条件である英語力については、力の差歴然。これは行く前から予想していたので大きく驚くことはありませんでしたが、やっぱり英語がうまく使えないというのは『困り』ました。日常会話なら身振り手振りで補えるので、休憩時間の雑談は楽しめたのですが、いざPBLで医学的な話となるとなかなか難しい。しっかり学習しなければと強く思いました。

それ以上にショックだったのが、単純に医学知識の差です。PBLでは血液検査値、顕微鏡画像、心電図等が出てきましたが、インジェ大学の学生はよく勉強しているなという印象でした。グループのみんなと話していると留学経験のある人が多いので、英語力だけなら言い訳できたかもしれませんが、医学知識に関してはただ日々の学習によるものです。分厚い教科書を手にとって登校している姿からも、学習に対する姿勢の違いを感じ、大きなモチベーションになりました。

インジェ大学の学生との交流

PBLに関しては刺激を受けることはあっても楽しいと思うことは少なかったのですが、放課後の学生との交流は本当に楽しかったです。

日曜日から土曜日までの滞在で、6回夜があるわけですが、僕がSkill's Labをさぼった木曜日以外、毎日飲みを誘ってくれ、観光地にも連れて行ってくれました。

お互いの大学のこと、授業のこと、地元のことなどを話しましたが、韓国で韓国の学生と話しているということを忘れ、福岡で九大の友達と話しているときと同じ感覚でした。

PBLのようなアカデミックな場では英語力が必要ですが、お互いの気持ちを伝えるのには必要ではないようです。

プサン滞在中、インジェ大学の学生には本当に親切にしてもらい、感謝しています。次は日本に来てくれると言った友達もいますし、自分もまたプサンに行きたいと思いました。とにかく、この関係を 1 回だけにするのではなくずっと続けていきたい、そう思えるような出会いです。